



さざんか

県立北薩病院だより



虚血性心疾患について

心臓は全身へ血液を送るポンプの役割があり、体はその血液中の酸素と栄養を取り込んで動いています。同じように心臓自体も酸素と栄養が必要です。虚血性心疾患というのは、心臓の筋肉(心筋)へ血液を送る冠動脈という3本の細い血管の通り道が狭くなったり詰まったりして起こる病気の総称です。

狭心症は冠動脈の通り道が狭くなることにより、心臓の筋肉に十分血液が送れなくなり、胸の違和感、締め付け感、痛みが出る病気です。運動、階段、坂道歩行など心臓に負担がかかるときに症状が出て、休むとよくなるというのが典型的な症状です。



一方、急性心筋梗塞はその冠動脈が完全に詰まってしまうことにより、心臓の筋肉に全く血流が送れなくなることで酸素と栄養が回らなくなり、心筋が障害(壊死)され、心臓の動きが低下する病気です。症状は強い胸痛や胸部締め付け感が数時間続きます。重篤な疾患であり、早期診断、早期治療が必要です。



第2循環器内科部長
川崎 大輔

これら虚血性心疾患の診断には心電図、冠動脈CT、心筋シンチグラムという検査を行って、疑いが高ければ心臓カテーテル検査が必要になります。

冠動脈を直接造影することでどの部分の血管がどれくらい狭くなっているのかが明瞭になり、結果をみて治療方針を決定します。治療は投薬治療、カテーテル治療、バイパス手術などがあります。

当院では新しい血管撮影装置を導入し、12月中旬より心臓カテーテル検査を開始予定です。

上記のような症状がある患者さんは循環器内科にご相談ください。



血管撮影装置



心臓カテーテル画像



北薩病院 縁の下の力持ち

< 4階病棟 >



今月は4階病棟にお邪魔しました。



質問：皆さんのお仕事の内容を教えてください。

答え：4階病棟は主に呼吸器内科、循環器内科、内科、神経内科の患者さんが入院されています。また感染症病床が2床あります。他にも睡眠時無呼吸検査入院やペースメーカー植え込みをされる方もおられます。安心して治療や検査が受けられるように、また、退院後も安心して生活できるように患者さんやご家族と話し合い、支援させていただいています。

質問：お仕事で大変なこと、苦労されている事がありますか？

答え：ご高齢の患者さんが多く、転倒・転落の予防に苦慮しています。その為、入院環境を整え、注意深く観察し予防に努めています。

だいぶ良かよー。



調子は
どうですか？

質問：お仕事のやりがいや、この仕事をしていて良かったエピソードを教えてください。

答え：患者さんの「良くなったよ。」「ありがとう。」という言葉をいただいた時に、心から嬉しくなり、思わず笑顔がこぼれます。

他職種で患者さんの病状について話し合っています。

患者さんに、安全に気持ち良く入浴していただくために頑張っています。